



表彰を受ける坂田さん

— 海に貢献した人たちに感謝の意をこめて —
海の日には海事関係功労者を表彰

7/23 長年にわたり、市で海に関わる業務などに貢献した人への表彰式を三角防災拠点センターで開催。九州運輸局・熊本海上保安部・九州地方整備局が6人、1団体を表彰しました。九州運輸局長表彰を受けた坂田英雄さん(69)は、「今回の表彰を糧とし、初心を忘れず海運業の発展に貢献したい」と感想を述べました。



三角西港の歴史について説明する齋藤さん(中央)

— 小川女性さくら学級開講 —
世界文化遺産の三角西港で社会見学

7/21 小川女性学級「さくら学級」第1回講座を開催。三角西港観光ガイドの会の会長齋藤万芳さん(73)の案内で開港の歴史を学び、石積埠頭や龍驤館など歴史的建造物を見学し、三角西港の魅力に触れました。学級生からは「明治の人が造られた世界遺産を詳しい説明で学ぶことができ感動しました。」との声が聞かれました。



「石炭ザクザク豆ごはん」を楽しむ当尾小の吉田有さん(6年生)

— 石炭をイメージした特別メニューを提供 —
学校給食で世界文化遺産を子どもたちに

7/8 ユネスコ世界文化遺産登録日に合わせ、子どもたちに世界遺産を知ってもらおうと大牟田市、荒尾市との3市合同企画で給食の特別メニューを考案。同日、宇城市と荒尾市では、石炭をイメージした「石炭ザクザク豆ごはん」が提供されました。子どもたちは、関連動画を視聴しながら給食を楽しんでいました。



内閣総理大臣メッセージを代読する保護司会代表の旭啓之さん

— 推進委員会を開催し啓発パレードを実施 —
社会を明るくする運動

7/1 「更生保護の日」に合わせて、市では第72回「社会を明るくする運動」宇城市推進委員会を開催しました。同委員会では7月を強調月間として、小中学生が対象の作文コンテストなどの啓発活動方針を制定。パレードでは、多くの人へ周知するため、保護司たちと協力し各支所や物産館に啓発ののぼりなどを設置しました。



女学校時代の戦争体験を話す元松芳子さん(中央)

— 体験者・研究者とともに —
平和を守るために「語りつごう戦争」

7/31 新日本婦人の会宇城支部が主催の「語りつごう戦争」展でトークイベントが開催。三角町の元松芳子さん(90)と不知火町の上村真理子さん(68)がそれぞれ体験者、研究者として戦争について語り、約30人が耳を傾けました。参加者は「今日の話を正しく伝えていかなければならないと思います。」と話していました。



ランウェイを歩く松村さんと参加者の高田芽生さん(右)

— 思い出を作りたい人を応援 —
宇城ガールズコレクションを初開催

7/23 不知火美術館で同コレクションを開催。これは県内の高校生たちが企画したもので、宇城市プロモーション大使の松村佳奈さんも協力し、ランウェイの歩き方を指導しました。思い思いのウエディングドレスを着た参加者8人がショーに登場すると、集まった約170人の観客たちが一勢に撮影を始めるなど盛り上がりを見せていました。



子どもたちがみんなで協力して完成させた作品も展示

— 小川阿蘇神社夏祭り造り物大会 —
地域で協力し3年ぶりに開催

7/15 小川町伝統の小川阿蘇神社夏祭り造り物大会が小川町商店街を中心に3年ぶりに開催。新町造り物代表の宮崎康彦さん(54)は「子どもたちと地域のみんなでアイデアを出し合って造り物を完成させました。」と制作の過程を語りました。夜市も行われ、歩行者天国になった商店街は多くの人出でにぎわいました。



和気あいあいとした雰囲気の中、マスクをチェック

— 10代が着けたくなるマスクの制作 —
三角町で熊本中央高生がマスク製造体験

7/8 熊本中央高校の2年生25人が三角町の誘致企業、くまもとマスク株式会社でマスク製造を体験。これは商品開発の授業の一環。生徒たちは「10代が着けたくなるマスク」をテーマに商品デザインを作成。自らが考えた同校のオリジナルキャラクター「くまちゅう」を自分たちの手で印刷し、楽しく学んでいました。